

別府史談会、県外史跡探訪（長崎、平戸）

外山健一、矢島嗣久

平成二十八年十一月十九日（土）、二十日（日）

1 平戸島の文化的景観

平戸島の小河川沿いの谷部には、安満岳やすまんだけを中心として防風石垣や石塀を備える主師しゅうし、春日、獅子、根獅子、飯良いらいら、宝亀、田崎、神取り、迎紐差むかひなひもさの集落や棚田が展開しています。

複合景観地として文化的景観が選定された価値基準は以下の三点です。

- ① 水田、畑地などの農耕に関する景観地
- ② ため池、水路、港などの水利用に関する景観地
- ③ 石垣、屋敷林などの居住に関する景観地

2 田平教会（国指定重要文化財）、天主堂

田平天主堂は、平戸瀬戸を望む丘に建ち、海と空の景色にとけ込む優美な姿で知られます。設計及び施行は、長崎県内の数々の教会堂建築に携わった鉄川与助



田平教会天主堂（長崎県）

（二八九七～一九七六）で、大正四年（一九一五）二月着工、大正六年（一九一七）一〇月に竣工し、翌年（一九一八）五月一四日に献堂式が行われました。長崎県内のレンガ造り教会としては最晩年の建築であり、外観・内観共に完成された意匠を見ることができます。

外観は、正面中央に八角形ドームの鐘塔を備え、外観はレンガ造り及び木造で、レンガの色づかいや積み方に変化をつけることで多彩な表情を造り出しています。内部は、木質にペンキ塗りで仕上げられ、連続するアーチの高窓、椿の花の浮き彫り、部分に使われた金色などが華やかな内部空間を演出します。なお、ステンドグラスの赤色もあだやかで印象に残ります。

建設は、信徒の手作業によって行われました。レンガ・瓦・セメント・木材などの材料は船で運ばれ、石灰は持ち寄った貝を焼いたものです。敷地内には、この貝焼き場のほか、司祭館、正面門柱、煉瓦塀、石段や石垣、便所、隣接の墓地などが良好に現存します。

教会堂と共に優れた周辺の歴史的環境も、高く評価されています。

平戸海上ホテルにて昼食。

午後、平戸島の文化的景観、視察。

6 平戸市

人口 三六、〇〇〇人（二〇〇九年度）

平戸市は、長崎県北西部の平戸島とその周辺を行政区

域とする市で、長崎県と九州本土の市として最西端に位置する都市。

平戸島の中央西部にある切支丹資料館を見学する。

「平戸海上ホテル」で昼食。

松浦史料博物館を自主見学。松浦氏の藩邸を博物館にしたもの。展示品約三万点。

宿泊先、HOTELAZ 長崎鹿町店

二日目

1 田平教会、視察、集合写真撮影

2 外海^{そとめ}歴史民族資料館

長崎市外海^{そとめ}地区には、先史時代の遺跡や中世の神浦氏の歴史、近世の大村・佐賀両藩の支配下におけるキリシタンの特異な歴史・文化など、祖先が残してくれた貴重な資源が豊富にみられる。

附近の教会に歩いて行ったが、行事の最中のため、教会内部の見学はできなかつた。

3 長崎^{そとめ}市外海の文化的景観

① 急峻な地形がもたらす石積み文化

② 塀等で加工しやすい結晶片岩がつくりだす特有の石積み風景

③ 石積みに刻まれた外海の暮らしと時間

④ 江戸時代から培われた高い石積み技術、伝統技術と西洋技術の融合

4 遠藤周作文学館

遠藤周作と外海地区との縁は、作品「沈黙」執筆中から始まり、これまで文学碑建立を通じて築かれたものです。

遠藤周作没後（一九九六年、平成八年）、遺族の厚意により建設したこの文学館は、同氏の貴重な生前の愛用品、遺品、生原稿・膨大な蔵書などを収蔵しております。この文学館は長崎市東出津町にある長崎市立の文学館です。同館には付近の川石を有効に利用されています。集合写真を撮影。

夕方、別府に帰着。



遠藤周作文学館（長崎県）